

ジャポニズムを背景とした着物の欧米における影響についての研究

Research of the influence of kimono in Western fashion in the background of Japanism

深井 晃子^{*1+}, 長崎 巖^{*2+}, 稲賀 繁美^{*3+}, 周防 珠実^{*1+}, 石関 亮^{*1+}

Akiko Fukai^{*1+}, Iwao Nagasaki^{*2+}, Shigemi Inaga^{*3+}, Tamami Suoh^{*1+}, and Makoto Ishizeki^{*1+}

*1 公益財団法人京都服飾文化研究財団 京都市下京区七条御所ノ内南町 103

The Kyoto Costume Institute,

103,Shichi-jo Goshonouchi Minamimachi, Shimogyo-ku, Kyoto, 600-8864, JAPAN

*2 共立女子大学 家政学部

Faculty of Home Economics, Kyoritsu Women's University

*3 国際日本文化研究センター 研究部

Faculty of Research Department, International Research Center for Japanese Studies

✦服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化女子大学

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture

Bunka Fashion Research Institute, Bunka Women's University

Abstract: The objective of this research is to clarify the content of the provenance and the collectable about the kimono and Japanese textile collection of museums in Europe. It especially focuses on the collection that the museums own before the 1930's.

In the year 2010, preliminary studies have carried out at the museums in Italy; Museo d'Arte Orientale Ca' Pesaro, Venice and Museo Pier Alessandro Garda e del Canavese, Ivrea. Museo d'Arte Orientale Ca' Pesaro, Venice, is one of the most important collection of Japanese art. This collection was bought by Prince Henry II of Borbone, Count of Bardi (1851-1906) during his travel to Asia, between 1887 and 1889. Museo Pier Alessandro Garda e del Canavese, Ivrea, has the collection of Japanese art, founded in 1876. This collection was bought by Pier Alexander Garda (1791-1880) in Europe; Paris and Vienna.

はじめに

ジャポニズムが広がりを見せた19世紀後半、西洋ファッションの発信地として機能していたパリを中心に、日本の着物が欧米諸国のファッションへ影響を与えていたことは前例研究[1]によって明らかになっている。これらを踏まえ、本研究は、着物に焦点を絞って、着物が欧米にもたらした影響関係の全貌を、より精度の高いレベルに置いて解明することを最終的な目的としている。

この目的のために、19世紀後半以降に形成され、現在でも存在する現地の日本染織コレクションについて来歴や収集品内容を調査することにより、物的側面からの根拠を与える。米国の美術館における調査[2]は既に行われているが、ジャポニズムに多大な影響を与えたと考えられるフランス、イギリスにおける情報はまだない。現在ではまとまりのあるコレクションのほとんどが美術館等の専門施設で保管・研究されて

*1) fukai@kci.or.jp

おり、本研究ではヨーロッパ主要国の美術館等を対象として、この目的を遂行する。

前年度は、研究計画遂行のため、先ずはヨーロッパ内の日本染織コレクションの諸像を各美術館に確認した後、イギリスのヴィクトリア・アンド・アルバート美術館、フランスのパリ衣装テキスタイル美術館及びギメ美術館における日本染織コレクションの現物調査を実施した。

本年度は、イタリアのヴェネツィア東洋美術館およびイブリア市立ガルダ美術館における日本染織コレクションの現物調査を実施した。

調査結果

(1) ヴェネツィア東洋美術館 Museo d'Arte Orientale Ca' Pesaro, Venice, Italy

Sestriere Santa Croce n. 2076 - Venice

ヴェネツィア東洋美術館の日本美術コレクションは、ハプスブルグ家の血筋を引くエンリコ・ボルボン・バルディ伯爵 Principe Enrico II di Borbone, conte di Bardi [1851-1906]が、1889年2月から7カ月間の日本滞在の間、日本全国を回って収集したものである。彼の死後、コレクションの半数は国家に寄贈され、現在、ヴェネツィア東洋美術館に所蔵されている日本美術工芸品は漆器、陶器、刀、武具、楽器、版画、掛幅、染織品等、約4,500点である[3]。

この度、現物調査を行ったヴェネツィア東洋美術館所蔵の着物類については、表1のとおりである。

表 1

	名称	時代	世紀	生地	収蔵品番号		種類
1	兎縮緬地秋野鹿文様小袖	江戸	18世紀後半	縮緬	1312	12703	小袖
2	萌黄縮緬地御所解模様小袖	江戸	18世紀後半 -19世紀前半	縮緬	1298	12753	小袖
3	浅葱縮緬地風景模様小袖	江戸	18世紀後半 -19世紀前半	縮緬	1288	12752	小袖
4	水浅葱縮緬地流水桜牡丹孔雀文様小袖	江戸	18世紀後半 -19世紀前半	縮緬	1313	12746	小袖
5	浅葱縮緬地御所解文様小袖	江戸	18世紀後半 -19世紀前半	縮緬	1322	12750	小袖
6	浅葱縮緬地(御所解)風景模様小袖	江戸	(18世紀後半) -19世紀前半	縮緬	1302	12738	小袖
7	浅葱縮緬地御所解模様小袖	江戸	19世紀前半	縮緬	1320	12737	小袖
8	白綸子地紅葉賀文様小袖(裏地)	江戸	19世紀前半	綸子	1323	12760	小袖
9	浅葱縮緬地御所解文様小袖	江戸	19世紀前半	縮緬	1291	12951	小袖

10	紺地格子文様熨斗目小袖	江戸	19世紀	平織		12757	小袖
11	白綾地紗綾形文様小袖	江戸	19世紀	綾織		12764	小袖
12	白綾地松笹梅亀甲鶴文散孔綾小袖	江戸	19世紀	綾織	1233	12759	小袖
13	紺縹子地青海波亀文様小袖(裏)	江戸 - 明治	19世紀後半	縹子	1323	12760	小袖
14	白綾地梅立松皮菱文様小袖	明治	19世紀後半	綾織	1316	12762	小袖
15	紺地縮緬地香道具(香包)文様小袖	明治	19世紀後半	縮緬	1325	12691	小袖
16	白縹珍地三重襷菊牡丹梅花丸文様小袖	明治	19世紀後半	縹珍	1327	12702	小袖
17	白縹子地芦鷺文様小袖	明治	19世紀後半	縹子	1310	12761	小袖
18	松竹梅貝桶幸菱腰替り文様打掛	(幕末 -) 明治	19世紀後半	唐織	1286	12747	打掛
19	黒綾地松立木菊文様(小袖)打掛	江戸	19世紀後半	綾織	1236	12692	打掛
20	黒縹子地松竹梅鶴亀文様打掛	明治	19世紀後半	縹子	1297	12700	打掛
21	淡茶地鶴文様打掛	明治	19世紀後半	綾織	1317	12679	打掛
22	剣山龍立浪宝尽文様打掛(歌舞伎衣装)	幕末 - 明治	19世紀後半	縮緬	1293	12706	打掛
23	白縹子地岩牡丹蝶文様振袖	江戸	18世紀後半	縹子	1314	12684	振袖
24	浅葱縮緬地風景文様振袖	江戸	18世紀後半 - 19世紀前半	縮緬	1234	12682	振袖
25	白縹子地松竹梅鶴文様振袖	江戸	19世紀前半	縹子	1285	12697	振袖
26	黒紅絹松笹梅凡帳文様振袖	江戸	19世紀前半	平織	1237	12690	振袖
27	白縹子地松竹梅丸文様振袖(打掛)	江戸	19世紀前半	縹子	1301	12699	振袖
28	鼠地風景文様振袖	幕末 - 明治	19世紀後半	平織	1307	12733	振袖

29	朶縮緬地風景文様振袖	幕末 - 明治	19 世紀後半	縮緬	1318	12730	振袖
30	白綸子地貝桶文様振袖	幕末 - 明治	19 世紀後半	綸子	1315		振袖
31	紺朶染分縮緬地亀文様振袖	明治	19 世紀後半	縮緬	1319	12722	振袖
32	黒縮緬地掛軸文様振袖	明治	19 世紀後半	縮緬	1306		振袖
33	朶縮緬地稚児若松根引き文様振袖	明治	19 世紀後半	縮緬	1324	12719	振袖
34	浅葱地菊文様振袖	明治	19 世紀後半	平織	1321 (1320)	12725	振袖
35	萌畝織地琴冊子貝桶手箱檜扇文様振袖	明治	19 世紀後半	畝織, 平絹	1287	12755	振袖
36	紺地舞楽(胡蝶)装束楽器文様振袖	明治	19 世紀後半	平織	1326	12748	振袖
37	水浅葱紺染分地竹鶴亀文様振袖	明治	19 世紀後半			12693	振袖
38	縹地雲龍菱唐草円文畝孔文様振袖	明治	19 世紀後半 -20 世紀	平織	1290	12709	振袖
39	紅縮緬地振袖(間着)	明治	19 世紀後半	縮緬		12685	振袖
40	濃縹縮緬地象唐子文様振袖(芝居用?)	明治	19 世紀後半	縮緬	1289	12740	振袖
41	朶平絹地風景文様振袖	明治?		平絹	1292	12756	振袖
42	水浅葱麻地風景文様帷子	江戸	18 世紀後半 -19 世紀前半	平織	1176	12686	帷子
43	紺紹地風景文様単衣(振袖仕立て)	江戸	19 世紀前半	紹	1308	12735	単衣
44	白綾地歌舞伎文様着物	明治	19 世紀後半	綾織	1303	12763	着物
45	浅葱地流水亀文様着物	明治	19 世紀後半	金襴	1311	12707	着物
46	茶地龍鳳凰文様着物	明治	19 世紀後半	錦	1294	12745	着物
47	紺地桐文様着物	明治	19 世紀後半	縺子		12744	着物

48	淡茶地鶴松葉文様着物	明治	19 世紀後半	唐織		12742	着物
49	淡茶地花動文様着物(打掛)	明治	19 世紀後半	錦	1299	12743	着物
50	紺地蝶文様着物(角袖)	明治	19 世紀後半 -20 世紀	繻子, 金襴	1305	12758	着物
51	濃茶薄茶段亀甲扇かたばみ 唐草文様唐織	江戸	18 世紀後半 -19 世紀前半	唐織	1241	12710	唐織
52	紅地秋草文様唐織	明治	19 世紀後半	唐織	1239	12983	唐織
53	幸菱亀甲繫段文様唐織	明治	19 世紀後半	平織, 唐織	1240	12711	唐織
54	紺地桐折枝鳳凰文様舞衣	江戸	18 世紀後半 -19 世紀前半	絹,縫 取織		12816	舞衣
55	萌黄縮緬地唐松鯉滝文様夜 着	江戸	18 世紀後半	縮緬	1304	12705	夜着
56	萌黄縮緬地桐立木七宝繫文 様夜着	江戸	18 世紀後半	縮緬	1295	12683	夜着
57	紅縮緬地振袖形衣服	明治	19 世紀後半	縮緬		12716	衣服

(2) イブレア市立ガルダ美術館 Museo Pier Alessandro Garda e del Canavese, Ivrea, Italy

Piazza Ottintti 18, Ivrea, Italy

イブレア市立ガルダ美術館のコレクションは、イブレア出身のピエール・アレッサンドロ・ガルダ中尉 Pier Alessandro Garda [1791-1880]が、政治的亡命によって居住地としたパリを中心としたヨーロッパにおいて明治 7 年(1874)年まで収集したものである。これらのコレクションである日本と中国の美術工芸品 736 点がイブレア市に寄贈されたことによって、1876 年に美術館が設立された。現在、美術館は長年にわたって修復中であり、イブレア市文化課の協力のもとにこの度の調査が可能となった。

今回の調査において、同館所蔵の日本染織品についての初めての現物調査が実施され、表 2 のとおり作品内容が明らかになった。

表 2

	名称	時代	世紀	素材	収 蔵 品 番号	種類
1	薄茶縮緬地菊流水風景模様小袖	江戸	19 世紀	縮緬	537	小袖

2	薄茶地麻の葉繋ぎ菊唐草蝶模様厚織	江戸末期	19世紀	唐織	478	厚織
3	黄羅紗地かたばみ紋付陣羽織	江戸	18世紀後半 -19世紀前半	羅紗	482	陣羽織
4	縹縮緬地麻の葉繋ぎ模様抱帯	江戸 -明治?	19世紀	縮緬	534	抱帯
5	濃茶縹子地(縹珍) 竹に菖蒲と藤模様帯地	江戸	19世紀	縹子	538	帯地
6	黒縹子地花筏立浪模様帯裂	江戸後半	18世紀後半 -19世紀前半	縹子	477	帯裂
7	紅縮緬地流水鯉藻掛袷紗	江戸後半	19世紀 (寛文期)	縮緬	483	掛袷紗
8	浅葱縹子地鶴亀三つ巴紋付掛袷紗	江戸	18世紀	縹子	536	掛袷紗
9	押絵人形	明治	19世紀	平絹、 紙	430-435	押絵人形

なお、美術館側の情報で日本製となっている作品のうち、収蔵品番号 535 の浅葱地二重菱繋ぎ模様帯及び収蔵品番号 382 のオランダ更紗製の枕については、調査の結果、日本製ではないことが判明した。

おわりに

本年度は、イタリアのヴェネツィア東洋美術館及びイブリア市立ガルダ美術館における日本染織コレクションの現物調査を実施した。

ヴェネツィア東洋美術館のコレクションはエンリコ・ボルボン・バルディ伯爵が1889年に日本国内で購入した日本染織品、一方で、イブリア市立ガルダ美術館はピエール・アレクサンドロ・ガルダ中尉が1874年以前にパリを中心としたヨーロッパ内で購入したものである。いずれも19世紀後半、ヨーロッパにおいてジャポニスムが流行し始める初期の時期に、日本に魅了されたイタリア人個人コレクターによって収集されたものである。これらのコレクションを通じて、当時、好まれていた日本染織品がどのようなものであったのかを今回の調査によって明らかにした。

文献

1. 京都服飾文化研究財団編 : 『モードのジャポニスム キモノから生まれたゆとりの美』展(京都国立近代美術館)図録 (1994)
2. 長崎巖著 : 『在外日本染織集成』、小学館(1995)
3. I. Kumakura, J. Kreiner : *Notes on the Japanese Collection of Count Bourbon Bardi at the Museo d'Arte Orientale di Venezia*, 『国立民族学博物館研究報告』 Vol.25(4), pp.641-668 (2001)